

発生予察情報

特殊報第3号

平成23年3月29日
秋田県病虫害防除所

リンゴ葉巻萎縮病の発生について

1. 病虫害名：リンゴ葉巻萎縮病 *Geniculosporium* spp.

2. 発生作物：りんご

3. 発生確認の経過

平成12年に鹿角市のりんご園において、既に明らかとなっている病害とは異なる新梢の萎縮症状が観察され、県果樹試験場で原因究明を行ってきた。その結果、発生樹には根の損傷および木質部の腐敗が観察され、これより分離した菌を接種したところ、同一症状が再現されたことから、平成21年に新病害として提案していたところである。その後、本病害は同時期に長野県より提案されていた新病害と同一病害であったことから、平成22年に*Geniculosporium* spp.による「リンゴ葉巻萎縮病」として再提案し命名された。

本病は木材腐朽菌の一種による病害であり、本県以外では長野県で発生が確認されている。

4. 病徴

- (1) 発病部位は新梢基部葉から中位葉までが多く、葉色は全体的に正常だが、こぶ状に脱緑斑が形成される場合や葉色が淡く壊死斑を形成する場合があります、ほとんどの葉は裏側に湾曲する(写真1、2)。
- (2) 発病樹の新梢には副梢が多発し、繁茂状態となり、健全樹と比較して、花芽の着生が劣り、重症化すると葉が著しく萎縮し、新梢伸長が抑制される(写真3~5)。
- (3) 一部の枝に発生を認めた樹では発生部位の切除を行うと翌年、別の枝に発生する場合があります。
- (4) 発病樹には主幹の地際部や地表面に露出した根系に草刈り等による損傷部とその損傷部の木質部には腐敗が認められる(写真6)ことから、主な感染部位は主幹の地際部や地表面に露出した根系と考えられる。

5. 防除対策

- (1) 本病は主幹の地際部や地表面に露出した根系の損傷部等から感染すると考えられるため、各作業時には、これら部位に傷を付けないように十分注意する。
- (2) 野そ等による主幹の地際部への被害や樹の倒伏等によって地表面に露出した根系に損傷等が発生した場合には、傷口の癒合促進のためにトップジンMペーストあるいはバッチレートの塗布剤を処理する。
- (3) 枝の折損等があると症状が顕在化する場合がありますので、園地巡回を行い、発病樹を確認したらできるだけ伐採等の処分を行う。
- (4) 現在、本病を対象とする登録農薬はない。



写真1 こぶ状に脱緑斑が形成され、葉は裏側に湾曲



写真2 葉色が淡く壊死斑を形成する



写真3 新梢には副梢が多発する



写真4 発病樹は花芽の着生が劣る



写真5 重症枝(葉が著しく萎縮し、新梢伸長が抑制)



写真6 根の損傷部から主幹部へ腐敗する

【問い合わせ先】

秋 田 県 病 害 虫 防 除 所	018-860-3420
秋 田 県 農 林 水 産 技 術 セ ン タ ー 果 樹 試 験 場	0182-25-4224
か づ の 果 樹 セ ン タ ー	0186-25-3231
掲 載 H P	http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/